日本勤労者山岳連盟・静岡県勤労者山岳連盟

裾野麗峰山の会 (sine１９９４)

第２３期・２、３巻　２０１７年５・６月号−２　ＮＯ．１９３・４

仲間と仲間を結ぶ機関誌

すーほう

Susono Reihou Alpine Club

山行ＮＯ．１７３６
０５月０３日　越後・御神楽岳

雪椿

裾野麗峰山の会・山行報告書

文・写真　後藤

山行NO　　ＮＯ．１７３６
日　時　　２０１７．０５．０３（水）晴れ
山　域　　越後・御神楽岳（１３８７ｍ）
コース　　関越道―北陸道―磐越道―津川ＩＣ―Ｒ４９―Ｒ２２７―室谷・セト沢林道終点発５：５５―登山口６：１９―御神楽岳９：５４～１０：２９－林道終点１３：３０―津川ＩＣ―磐越道―安田ＩＣ―五頭温泉―五頭公園キャンプ場
標高差　　上り　林道終点約２５０ｍ～御神楽岳１３８７ｍ＝約１１３７ｍ
　　下り　　〃
参加者　　Ｌ・ＴＧ、ＫＨ

素晴らしい大展望の山

今年の５月連休は、当初、昨年のリベンジで、唐松岳～五竜岳だったが、私が３月スキーで脚を痛め、まだ回復が十分でなかったこと。また、昨年の仲間の山行が思うようにならなかったこと。私も年齢を重ね、未踏の山に上りたかったこと。などで結局、越後の山を選んだ。
計画では、三つの山に上る。最初は、菱ヶ岳～五頭山だったが、元気がある最初に、一番大変と思われる御神楽山に決めた。
前日、室谷から常浪川を渡り、セト沢方面を下見したが、イマイチ登山口がハッキリしなかった。しかし、２万５千図をよく見ると分かって一安心。

御神楽山遠望

室谷は、山菜宝庫。道路途中に「検問所」があり、入山者から、１０００－徴収するようだ。また、オカシナ看板があって、ゼンマイ取りは「午後から入山禁止」とあった。意味がよく分からなかったが、「午後からの入山は、時間切れになる可能性があるから」と思った。辺りは、菊咲一華・片栗が凄く、雪が融けた斜面に一斉に咲いていた。
セト沢林道を標高２５０ｍまで入ると、林道にブロック雪崩があり道を塞いでいた。右手の斜面が急斜面の崖で、上部からの雪崩が凄い。車はこの手前に置いて出発。他、山菜取りの車が１台。雪が多い林道を進む。今度はフキが凄い。雪国のフキは特に美味しい。林道を３０分で登山口着。沢沿いを上る。

最初から雪の斜面。ただ、下部は腐っているので、アイゼンは履かない。

新緑が眩しい雪の斜面を上る。雪解けの沢の音が響く。
暖かく、青い空、白い雲。ブナの芽吹き、風も柔らかい。そして静か。連休でも誰も居ない山。
サイコーの舞台だった。サクサク上って行く。次第に周囲の山々が上がって来る。
今年は雪が多く、山々はまだ真っ白だった。知らない山域に来て、山座同定が難しい。
それでも北に飯豊連峰、その後ろは、朝日連峰。北東に昨年秋に再登した、会津磐梯山。
南西には大きな長い裾を広げた、先日上った守門岳、そしてその後ろに浅草岳。
浅草岳を滑った、早坂尾根がハッキリ大きく確認出来て嬉しかった。
ハハ～、当たり前だが、早坂尾根は、やっぱり北に向かっている。
途中からアイゼンを履いた。やっぱりないと効率が悪い。

サクサク上る

飯豊連峰遠望

スキーが出来そう

尖がりピークが御神楽岳

ひと上りで、雨乞峰着。相方は以前、ここから北に延びる、蝉ヶ平コースを上ったという。
ヤマレコ記録では、このコースは、急峻で余り上られていないので、難しいようだ。
大人数で、雨乞峰までで、本峰に時間切れで上れなかったと言った。
今回、それが達成されるようで、喜んでいた。
雨乞を一旦下り、上り返して、祠を左に見て頂上着。

御神楽岳頂上

ナガラミを喰う

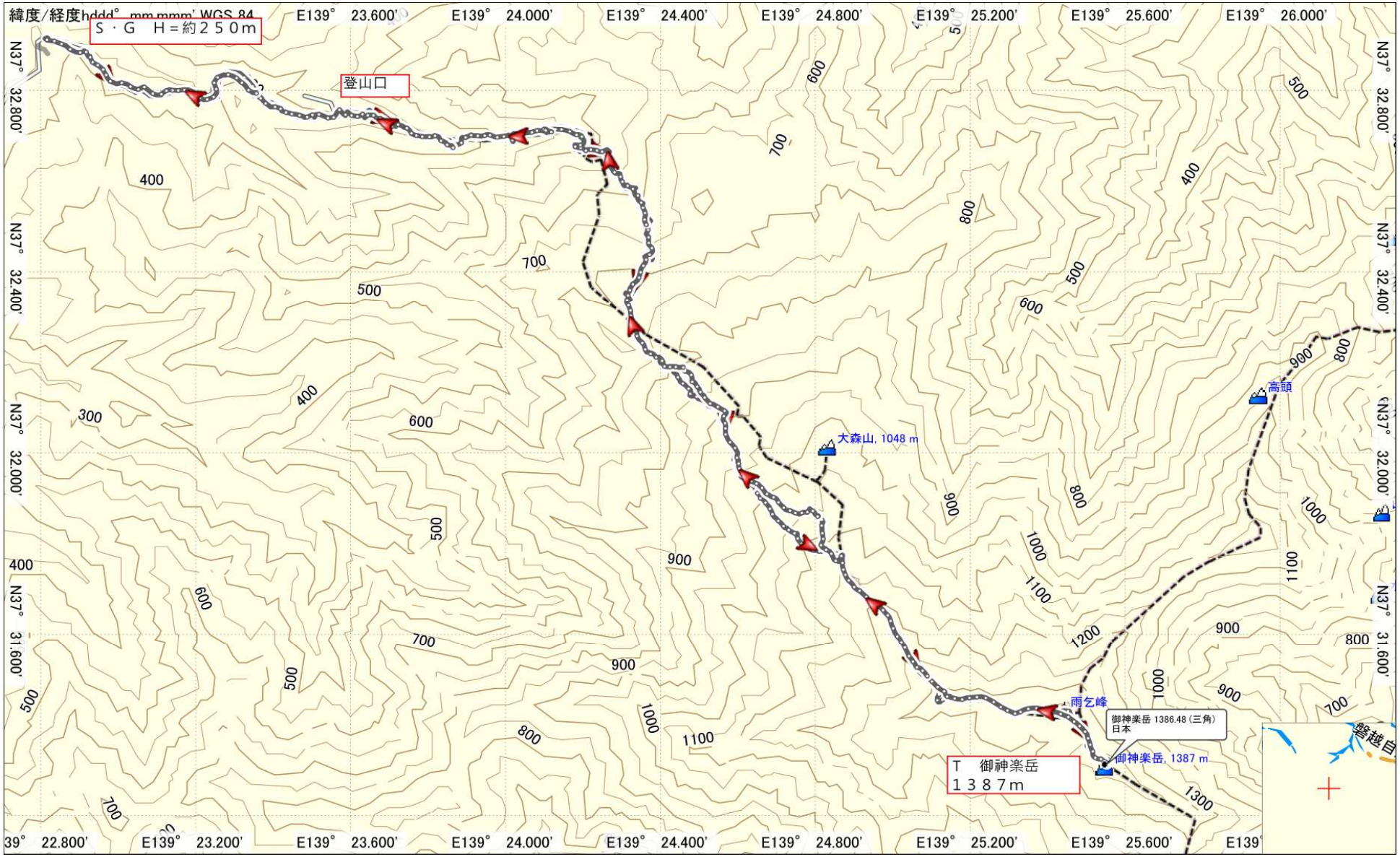
方位板

祠の先は少しガレていたが、無事頂上着。なかなか手応えがあった。
越前岳より低い山だが、登山開始点の標高が低く、雪も多く、侮れない。
頂上の方位板が笑ってしまった。何と、ソウル・モンゴル地方・アムール地方とあった。
う～ん、国際的というか、確かに日本海の向こうは、それらだが・・・。
頂上は風がなく暖かく、シアワセだった。腹が減って、ビアとナガラミが美味かった。

菊咲一華

雪椿

下山は、ガシガシ下る。残雪山の下降は快適。
ただ、既に上りのトレールは消えているので、慎重に下る。朝、閉じていた花々は、陽光で満開。正に春だった。フキを採って下る。このフキは美味しかった。
温泉は、五頭温泉・華報寺の弘法大師が開いた温泉。キレイな温泉だった。３００ーはイイ。
やっぱり越後の残雪山は、素晴らしい！！



Japan Topo 10M Plus V3
CanvasMapple Co., Ltd 2014
Garmin Corporation 1995-2014

2017/05/07 5:37:48

0 m　250 m　500 m　750 m　1000 m

GARMIN

MN　TN
-7.6°
2010/01/01

裾野麗峰山の会・山行報告書

文・写真　後藤

山行NO　　ＮＯ．１７３６－２
日　時　　２０１７．０５．０４（木）快晴
山　域　　越後・菱ヶ岳（９７４ｍ）～五頭山（９１３ｍ）
コース　　津川ＩＣ－磐越道―安田ＩＣ－Ｒ２９０－五頭公園キャンプ場駐車場発５：５９－岩団扇の路―菱ヶ岳８：２７－雪尾根―五頭山分岐―五頭山１０：１９―一の峰１０：３９～１１：０８－三の峰小屋―駐車場１２：５４－「出湯（でゆ）温泉」華報寺・共同浴場―Ｒ２９０－Ｒ４１－五泉（ごせん）駅―加茂川・第一貯水池１６：２６
標高差　　上り　キャンプ場上駐車場約２０５ｍ～菱ヶ岳（９７４ｍ）＝約７６９ｍ
　　下り　　〃
参加者　　Ｌ＝ＧＴ、ＫＨ

岩団扇の山、延々と続く雪尾根

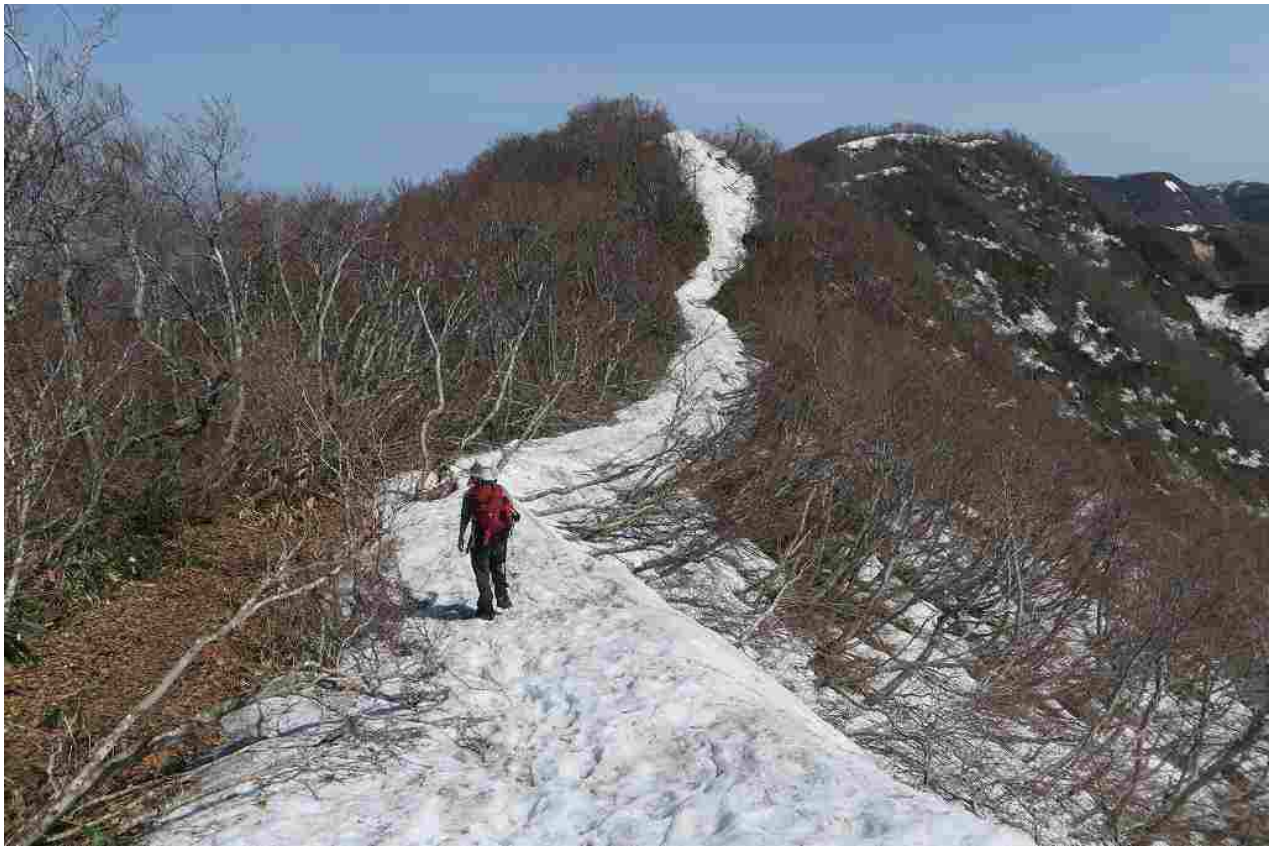
２日目は、比較的楽な、菱ヶ岳～五頭山。五頭山公園駐車場から出発。天気は今日も快晴。公園は水洗トイレがあり、快適だった。丁度、ＦＭでロリンズをやっていて、朝から絶好調。
沢沿いに上り、すぐ急登りが始まる。錨草、稚児百合・雪椿が迎えてくれた。快適な道を上る。岩団扇が出て来た。結局、この山は、最初から最後まで岩団扇の山だった。兎に角、凄い。

岩団扇（いわうちわ）

岩団扇は、静岡県に少ない。色も白・淡いピンク・濃いピンクと様々。
菱ヶ岳が近づくと、１０００ｍ満たない山だが、雪が出て来る。
頂上に着いた。展望は素晴らしい。昨日遠かった、二王子山が真近か。２０１１年５月に上った。
頂上には、大きな基石がゴロゴロしていた。昔は、立派な社があったのか。
五頭山に向かう。なだらかな雪尾根が延々と続く。５月の１０００ｍ満たない山で、これほどの雪尾根が続くのは、流石に越後である。
登山者は、２～３名。逆コースはいない。

菱ヶ岳頂上

雪尾根が続く



越後雉蓆

途中の開けた場所に、見事な越後雉蓆（えちごきじむしろ）が咲いていた。ここで大休止。
更に進む。ひと上りで三の峰と五頭山分岐。五頭山に上らない方もいたが向かう。
簡単に着いた。特に山名柱は無かった。先着の地元の方が周りの山を教えてくれた。
空気が澄んでいると、鳥海山が見えるそうだ。飯豊連峰は、手の様に近い。
長靴で花束を持った地元の方がいた。毎週上っているそうだ。地元の方は長靴が多い。靴底がガジガジになっている。一の峰に向かい、ここで昼食。多くの方が昼食。冬は写真の石碑が隠れる程の積雪だそうだ。連休で父・男子の親子がいた。
この方、出湯温泉から上ったが、三の峰避難小屋分岐で道を間違え、キャンプ場に下ってしまった。お父さんは、トホホだった。出湯方面に帰る方に乗せて貰いヤレヤレだった。

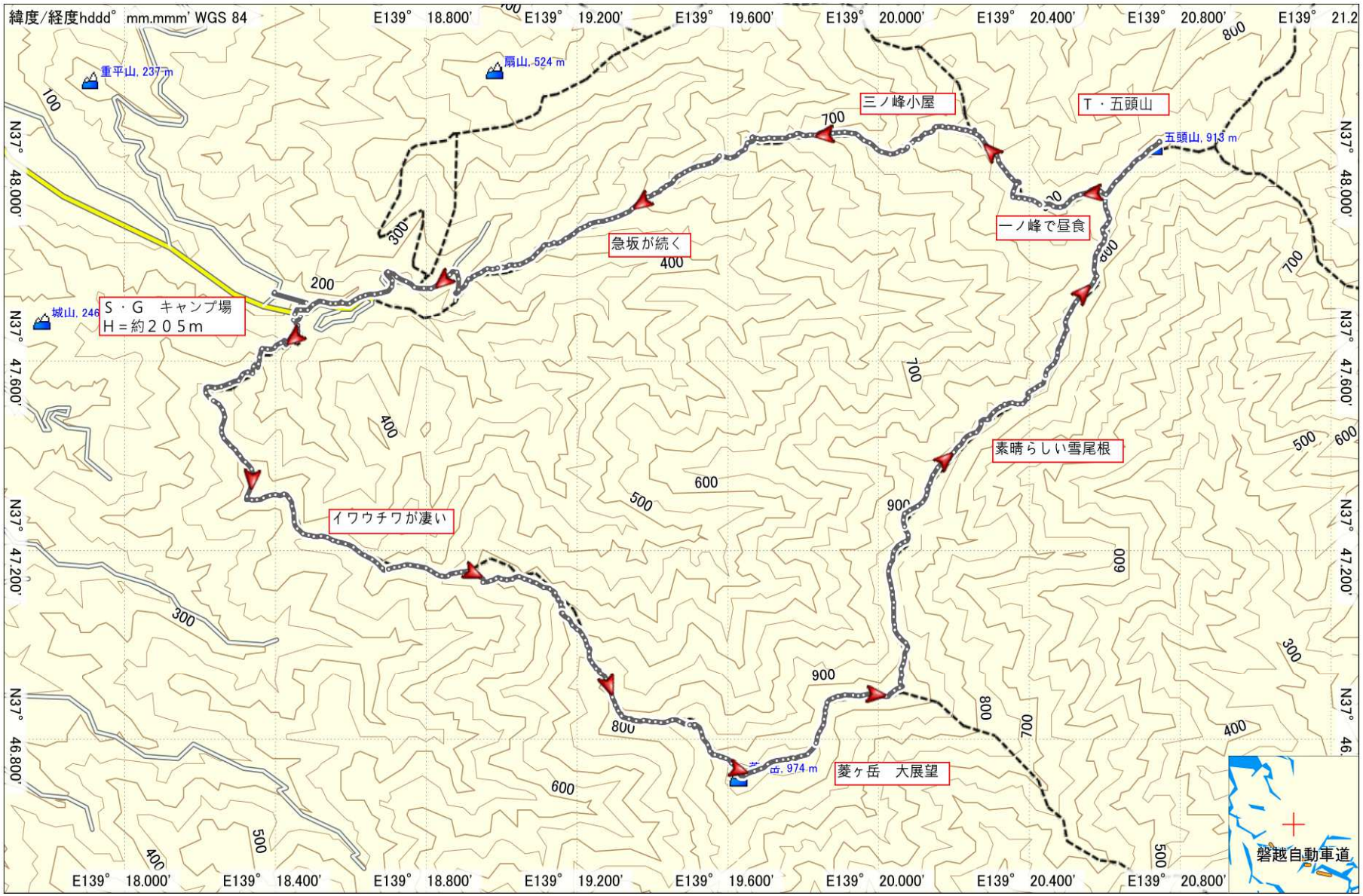
一の峰・長靴の地元オジサン

三の峰避難小屋

出湯温泉・華報寺

先ほどの長靴オジサンが花束を地蔵さまに上げていた。
奥さまの病気を心配しているとのこと。
昼食を済ませ下山。避難小屋でも沢山の方が食事中だった。
中に小学生４年の女の子の家族がいた。
更に下からゾロゾロ大勢上って来る。天気が良く暖かく連休。五頭山は、市民に愛されている山なのだ。
次第に暑くなる尾根を下り、キャンプ場着。周遊コースが出来る山はイイ。
温泉は昨日と同じ出湯温泉の華報寺・共同浴場の弘法大師の温泉に入った。その昔、弘法大師が温泉を掘り当てたとの伝説。
意外だったが、この寺は、曹洞宗だった。昔は、真言宗だったと思うが。
温泉は湯船の真ん中から噴出している。ただ、それを跨いたり、お尻を向けることはご法度。弘法大師に失礼ということだ。入口の看板に書いてある。
この温泉は２０１１年、二王子山（にのうじやま）登山の際も入った。当時の入湯料は２００－。今回も２００－。良心的である。早朝から開場しているのもイイ。
お湯は、全く濁りがなく透明度は１００％でキレイ。ややぬるいので、冬は温まるのに時間が掛かるそうだ。泉質は、ラジウム温泉で飲用に良いとのこと。４リッターいただいて、料理に使った。
今回は新発田在住のＫ氏に会えなくて、ちょっと残念でした。

（了）



Japan Topo 10M Plus V3
CanvasMapple Co., Ltd 2014
Garmin Corporation 1995-2014

2017/05/07 5:37:48

0 m 250 m 500 m 750 m 1000 m

GARMIN

MN TN
-7.7°
2010/01/01

裾野麗峰山の会・山行報告書

文・写真　後藤

山行NO　　ＮＯ．１７３６－３
日　時　　２０１７．０５．０５（金）快晴
山　域　　越後・粟ヶ岳（１２９３ｍ）
コース　　加茂川・第一貯水池発５：１６―第一展望台６：２８－鎖場７：０２―粟庭の頭―粟ヶ岳小屋７：２５―北峰８：０７－粟ヶ岳８：２７～５８―小屋９：４５―鎖場１０：１６―貯水池１１：３５―美人の湯－北陸道―糸魚川―長野道―帰静
標高差　　上り　第一貯水池約１５０ｍ～粟ヶ岳１２９３ｍ＝＝約１１４３ｍ
　　下り　　〃
参加者　　Ｌ＝ＧＴ、ＫＨ

粟ヶ岳はタムシバの山だった

３日目は、粟ヶ岳。最終日の山としては、やや手応えある標高差。
例えば、先日上った、丹沢・檜洞丸の標高は、１６００ｍで標高差は１０５０ｍ。粟ヶ岳は、標高こそ檜洞丸より低いが、登山口が約１５０ｍ。結果、檜洞丸より標高差は大きい。しかも、まだ、豊富な残雪を抱えている。
そもそも、第一貯水池は、かなりの山奥だが、標高が１５０ｍは摩訶不思議。この辺り一帯の山々は、殆ど平野にボコっと佇立している。標高的には、裾野駅・標高＝約１２３ｍから袴腰岳・標高＝１２４８ｍに上る感覚だ。ま、ちょっと比較に無理はあるが・・・。

一番奥が粟ヶ岳

貯水池から出発。既に２名先行した。今日の登山道は、中央登山道と呼ばれている。
池を渡ると急登が始まる。周りは、田虫葉（たむしば）が花盛り。田虫葉は、辛夷（こぶし）に花が似ているが、両者は花の形が違う。田虫葉の花は、長くヒラヒラしているが、辛夷は、丸い感じである。
兎に角、この山は、田虫葉が多かった。
梯子を幾つか越えて、程なく尾根に乗る。道は案外歩き易かった。展望台から一番奥に粟ヶ岳が見えた。
尾根は次第に急峻になり、梯子、鎖、ロープが出て来る。

鎖場

田虫葉

ＮＯ．６看板

とても１３００mほどの山と思えなかった。
右手に長い長い裾を広げた守門岳が大きい。先日、我々が上った大岳の尾根は向こう側で見えない感じだった。雪はまだまだ多く、スキーが出来る情報。

粟ヶ岳ヒュッテ

中は綺麗

ひと上りで、粟ヶ岳ヒュッテ着。立派な小屋だった。中もキレイ。貴重な小屋である。
少し下り、権ノ神岳からの尾根と合う。この先が北峰。
頂上は、まだ先だった。三日間の疲れがあった。しかし、踏ん張って上る。

右奥が粟ヶ岳

朝、二番目に上った方が降りて来た。この方は、ズックだった。ほどなく頂上着。無風・快晴・高温・大展望。今回は全ての山で晴れて感謝だった。
一番で上ったオジサンがいた。地元の方で方言が柔らかい。オジサンは長靴でなかった。歓談をする。話好きだった。小腹が減ったので食事。オジサンにも、いろいろ差し上げた。
次第に登山者が増えた。中に南面の南五百川方面から上った方がいた。こちらの登山口の標高は、約１００ｍしかなく、更に標高差は増える。この方は元気な方で、権ノ神岳方面に遊びに行くと話していた。
お腹を満たし下山。ヒュッテが眼下だった

粟ヶ岳頂上

頂上10

片栗（Ｋ撮影）

猩猩袴

稚児百合

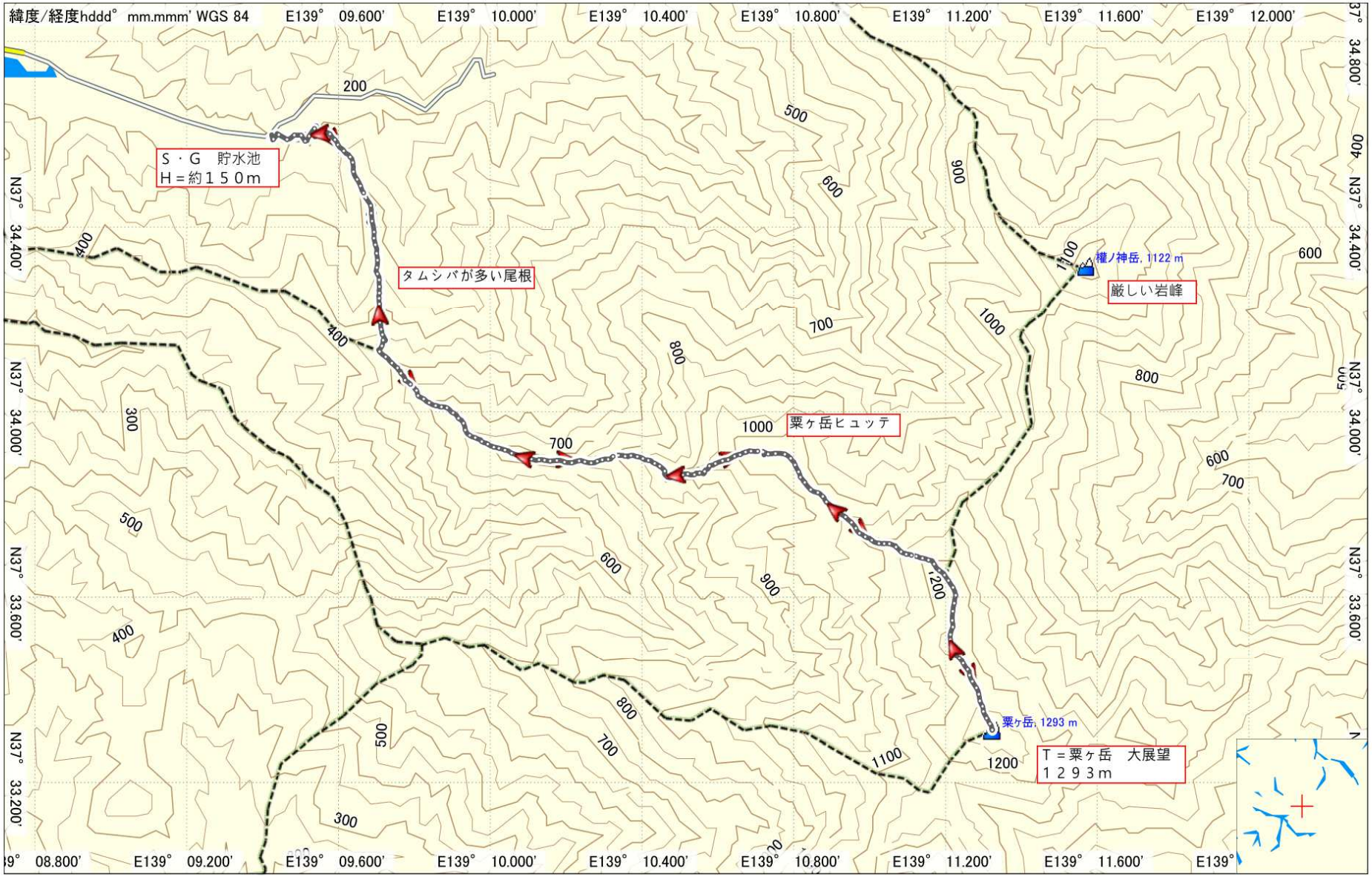
北峰の雪庇が大きかった。ヒュッテに着くと、何人か上って来た。

好天時は暑いので、早出早着が肝心である。
グングン下る。やっぱり田虫葉が多い。上部の花は新しくキレイ。蒼穹（そうきゅう）に映える。猩猩袴（しょうじょうばかま)、稚児百合が咲いていた。

田虫歯

岩団扇（Ｋ撮影）

急坂を下れば、貯水池着。これで今回の山は予定通り全て無事に終わった。
温泉は、通り道の「美人の湯」（７００－)。休憩所は、粟ヶ岳がバーンと見える、大展望で感動的だった。ブリ丼を喰って帰路についた。北陸道～長野道は空いていて、良いルートです。　　（了）



Japan Topo 10M Plus V3
CanvasMapple Co., Ltd 2014
Garmin Corporation 1995-2014

2017/05/07 5:37:48

0 m　250 m　500 m　750 m　1000 m

GARMIN

MN　TN　-7.6°　2010/01/01